

8～12月の太平洋海域における漁海況予報

漁業生産研究所 海洋資源グループ

愛知県水産試験場が海況・資源調査で参画している「太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報」において、8～12月の黒潮流型と沿岸水温及びいわし類など多獲性浮魚類来遊量の見通しが、8月6日に国立研究開発法人水産研究・教育機構中央水産研究所から発表されました。

愛知県海域についての予報

1 海況(黒潮流型はA型で推移する)

黒潮は伊豆諸島海域の西側を北上することが多く、蛇行北上部から暖水が波及することが多い。沿岸水温は「平年並み」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。(黒潮流型は図1参照)。

2 マイワシ(前年を下回る)

春季のマシラス漁獲量が前年を下回ったことから、成長して漁獲対象となる0歳魚は前年を下回ると見込まれる。主な漁獲対象は0歳魚(10～16cm)で、1歳魚以上(15cm～)が混じる。

3 カタクチイワシ(前年を上回る)

6月以降のカタクチシラスの漁獲は好調で、秋以降に漁獲対象として加入が期待されること、7月のカタクチイワシの漁獲も好調であることから、漁獲量は前年を上回ると見込まれる。主な漁獲対象は0歳魚(～9cm)。

4 シラス(前年を上回る)

6月以降もカタクチシラスの漁獲状況は好調に推移しており、内湾で成熟したカタクチイワシが漁獲されていることから、漁獲量は前年を上回ると見込まれる。

詳細は国立研究開発法人水産研究・教育機構中央水産研究所ウェブページをご覧ください。

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2019/20190806/>

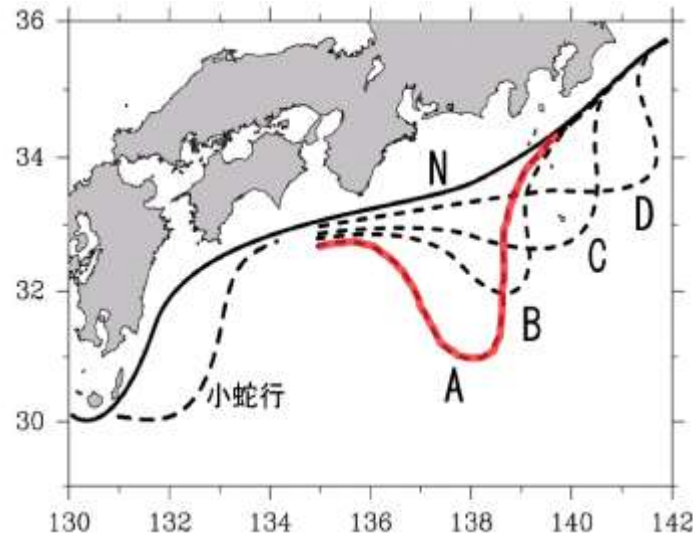


図1 黒潮流型の分類

ミルクイ放流試験を行いました

漁業生産研究所 栽培漁業グループ

ミルクイは高価で取引される大型の二枚貝ですが、近年漁獲量が減少し、資源増大を図るため、漁業者団体は稚貝放流を行っています。

当グループでは、放流後の歩留まり向上を図るため効果的な放流方法の開発を行っています。6月末に日間賀島の下海海域に、敷網を設置した保護区と対照区を設け放流試験を行いました。なお、放流には水産試験場の陸上水槽で4ヵ月ほど養成した殻長約27mmのミルクイに、日間賀島漁協の漁業者と共にペイント標識(図2)を施したものをを用いています。(図3)。

敷網による保護効果など検討していくためには、放流したミルクイの成長や生残を追跡することが重要です。今後操業中や市場などでペイントされたミルクイを見かけましたら、当グループまでご連絡ください。

連絡先 漁業生産研究所 栽培漁業グループ

TEL:0569-65-0611



図2 漁業者によるミルクイ標識作業



図3 標識されたミルクイ種苗

ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマが発生しています

本場 漁場保全グループ

渦鞭毛藻類の1種である *Heterocapsa circularisquama*(ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ。以下、ヘテロカプサ)はヒトの健康に害はなく、密度が高くなると特異的に貝類のへい死を招きます。愛知県では平成12年に初めて確認され、このときアサリが大量にへい死しました。

これまでの調査により、今年のように5月の水温が高い年は夏季にヘテロカプサが増殖しやすいことがわかってきました。

7月9～10日にかけて実施した調査では、三河湾で最高密度332細胞/mLが確認されましたが、8月上旬に実施した調査では11細胞/mLと低下していました。ヘテロカプサは高水温・高塩分の環境を好んで増殖することから、7月中下旬の雨の影響で海水の塩分が低下し、増殖が抑制されたと考えられます。例年8月上旬から9月上旬(図4)が増殖のピークとなっていることから、今後も動向を注視していきます。

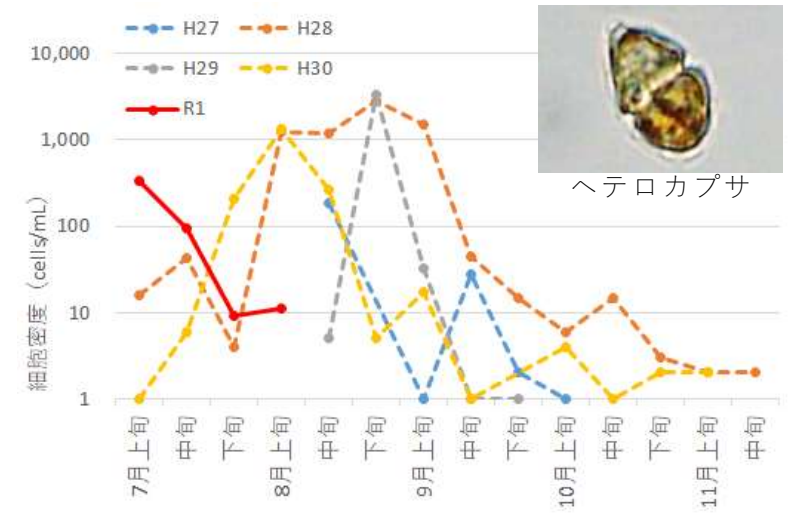


図4 ヘテロカプサの出現状況(過去5年)

